



全国非開削普及協議会
第12回定時総会の内容が月刊下水道
10月号に掲載されました

全国非開削普及協議会： 第12回定時総会を開催 岡本会長の続投を決定

全国非開削普及協議会は8月21日、東京・港区のメルパルク東京で第12回定時総会を開催した。

総会冒頭に挨拶に立った岡本州雄会長は「合流改善事業が平成25年度末で一段落ついたことから雨水集水ます浸透工法の昨年度施工量は伸び悩みを見せた。しかし大都市については平成35年度末まで同事業が続くこと、さらに政令市を中心に本格採用に兆しが見え始めたことから、今後の需要増が期待できる」と話した。



岡本会長

同協議会は平成26年度、①支部組織の拡大、②非開削工事や環境保全技術の普及、③雨水集水ます浸透工法（EGSM工法）PR活動の全国展開——等を実施した。

平成27年度については、昨年度に引き続き支部組織の拡大を図るとともに、非開削工事および環境保全技術の普及、EGSM工法PR活動の全国展開を実施していく方針が示され、事業計画案は満場一致で可決承認された。

また同総会では任期満了に伴う役員の改選が行われ、岡本会長が再任された。



全国非開削普及協議会
第12回定時総会の内容が月刊推進技術
10月号に掲載されました

会員動向 非開削工法を「環境負荷の低減や安全・安心な工法」として普及したい

第12回定時総会
全国非開削普及協議会

全国非開削普及協議会（当協会：賛助会員、会長：岡本州雄・スピーダーレンタル機代表取締役社長）は、8月21日メルパルク東京（東京・芝公園）において第12回の定期総会と特別講演を開催した。

総会の冒頭、岡本会長があいさつに立ち、東日本大震災の復興需要や2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた建設需要を見据え「高精度でコンパクトな小口径管推進工法、道路集水ます浸透工法EGSM工法、下水道用マンホール浮上防止工法等、各種非開削技術の啓蒙活動を通じ、環境負荷の低減や安全・安心な工法として非開削工法の普及に努めていきたい」と基本方針を示し、推進工法、EGSM工法、インナーウエイト工法の3工法の普及をめざしている非開削普及工事推進部会について「平成25年度末の合流式下水道緊急改善事業の終焉に伴い、同26年度のEGSM工法の施工実績が前年比85%減と大幅に落ち込んだが、大都市の同改善事業の期限が同35年度となっており東京都の杉並区や世田谷区、政令都市の新潟市や広島市などからの引き合いがある」とEGSM工法の需要増加に期待を語った。環境保全技術推進部会では「環境保全に関する技術開発の継続および新たなニーズの発掘に努めるとともに、土壌汚染技術開発の継続と放射能汚染水の処理を含めた泥水処理技術の向上を目指す」とそれぞれの事業方針を示した。



▲「環境負荷の低減や安全・安心な工法として非開削工法の普及に努めていきたい」と基本方針を示す岡本会長



▲特別講演で「今、日本推進業界に求められる新たな3つの挑戦」というテーマで持論を展開する石川専務理事

議事では、支部を含めた協議会組織の拡大と非開削工事、環境保全技術普及、EGSM工法ならびにインナーウエイト工法の普及拡大を柱とした今年度事業計画とそれに伴う予算案を審議し、満場一致で可決承認された。

議案終了後の各部会の報告では、非開削普及工事推進部会からは「EGSM工法は減少したがインナーウエイト工法が千葉県の実施工で評価された」と報告。

EGSM工法研究会からは下水道展'15東京への出展報告と来年の下水道展'16名古屋への出展計画を示した。

環境保全技術普及部会からは①再生砕石②改良土③流動化処理土④六価クロム汚染土壌処理⑤重金属油汚染土壌処理⑥アオコ処理⑦床ワックス剥離廃液処理⑧一般土木処理（SS成分20,000mg/l以下）⑨金属加工・メッキ工場排水処理⑩有害物含有排水処理⑪六価クロム等重金属含有排水処理⑫特殊排水処理（エマルジョン、油分

等）の12項目のビジネスアイテムについての活動状況と今後の展開について報告。さらに福島第一原子力発電所事故による放射能汚染地域の高圧洗浄時に発生する放射能汚染水の処理の対応を行っていることなどが報告された。

総会終了後の特別講演で（公社）日本推進技術協会の石川和秀専務理事が「今、日本推進業界に求められる新たな3つの挑戦」というテーマで①いかに海外事業を安定的に成長させるか②いかに都市地下基盤再整備事業のなかに新たな需要を発生させるか③世界最高水準の推進技術を継承・進化させるため、いかに若手技術者を育成するかという3つの挑戦を掲げ、「いまなぜ新たな挑戦が求められるか自己の足元の現状を確認せよ」「日本推進技術の海外定着化と事業市場の安定的成長への挑戦」「都市地下基盤再整備事業の中に新たな需要を開拓」「若手推進技術者・技能者を養成・確保することへの挑戦」というキーワードを掲げ1時間にもわたり持論を展開した。

